住みよいまちづくりのために

市街化区域 用途地域指定案できる

都市計画の用途地域の指定案がまとまりました。

側度の改正によって、いままでの用途地域を改める必要がでてきたことにより、市街化区域を八種類の用途地域に指定し、それぞれの地域にふさわしいように建物の用途や形態の制限を定めようというものです。用途地域の種類とその概要は次のとおりです。

第一種住居専用地域―早通、尾山の各一部、前新田、法花島屋、住良、中嘉山、川岸など、宅地造成がすすめられているところの一部が予定されます。ここでは、低層住宅地として良好な環境を保護するための地域で工場や風俗営業施設などは建築できませんが、日常生活に必要な一定の店舗併用住宅、小中学校などは建てられます。

第二種住居専用地域―東葛塚および葛塚駅裏、早通の各一部が予定されます。

ここでは、中高層住宅も建つような住宅地として比較的高密度な住宅地という性格から、都市的な生活の利便にも重点がおかれます。工場、ボーリング場などは建てられませんが、店舗、事務所、病院などは建てられます。

住居地域―主として住居の環境を保護するための地域で工場、劇場、キャバレー、トルコ風呂などはできませんが、小規模な工場、パチンコ屋、ボーリング場、ホテル、旅館などは建てられます。用途地域のなかでは最も広い面積があります。

近隣商業地域―早通、白新町の一部、他門、常盤町、上大口などが予定されます。

ここは、周辺住民に対して、日用品を供給する商業などの利便を増すための地域で、一般の工場や劇場キャバレー、トルコ風呂などは建てられませんが、店舗、事務所などのほかに、小規模な工場も建てられます。

商業地域―白新町および東港地域の一部と、葛塚の中心部が予定されます。

各種商業業務施設が集まる都心などの商業業務の利便を増すための地域で、ここではとくに商業地としての環境をそこなうような工場などの建築が制限されるだけで、他はほとんど何でも建てられます。

準工業地域―新発田市佐々木に隣接した地域、および葛塚駅裏の一部が予定されます。

主として、環境の悪化をもたらすおそれのない工業の利便を増すための地域で八種類の用途地域のなかでは最も用途の制限がゆるくなっています。

工業地域―新崎に隣接する兄弟掘の地域が予定されます

工場以外の建物については、住宅、店舗、娯楽施設などは建てられますが、学校、病院、ホテルなどは建てられません。

工業専用地域―東港地域が予定されます。

工場はどんなものでも建てられますが、工業地域では建てられる住宅、店舗、娯楽施設などは建てられません。

豊栄の建設工事

〜結果〜

〜入札〜

道路関係

△前新田村裏線側溝工事、上杉組　五六万円　七月三十一日

▽大月、上大月線舗装工事、中野建設工業㈱　一四五万円　八月十九日

▽上黒山八幡道舗装工事、中野建設工業㈱　八三万円　八月九日

都市ガス工事

○木崎小学校裏のガス管分岐点から木崎農協合　代表野村勘個人　橋本辰次（内島見）小川兵平（早通）林　文治（笠柳）山田信光（横井）長谷川長三郎（下世門）

（工事名、施工者、工事費完工予定日）

学校関係

△豊栄南小学校排水工事、㈱清水組　一三五万円　七月三十一日

△葛塚中学校廊下、便所給排水衛生設備工事、㈱白新工業、二二八万円、八月十日

△葛塚中学校廊下、便所建築工事、㈱佐藤建設　六八五万円、八月二十日

△木崎中学校便所築工事、㈱鈴木組　三八五万円　七月二十日

△二市一郡で老人ホーム

新発田市、豊栄市、北蒲原郡内各町村で組織する「新発田地域老人福祉施設一部事務組合」が発足しました。

これは現在水原町と新発田市にある老人ホームを合併しあらたに新発田市豊町（県総合庁舎うら附近）に定員百五十人の老人ホームを造ろうというものです。計画によると面積は約八千二百平方㍍で総事業費約二億一千万円です。

★中央競馬会から環境整備費

中央競馬会から競馬場周辺の環境整備費として、三千二百八十三万円が市に配分されることになりました。

これは競馬場所在市町村に対して周辺の環境整備のために交付されるもので、競馬場から半径二キロ㍍以内の道路や交通安全施設、下水排水施設、公園、消防施設、保育所小中学校などの施設整備などのために使用されます。

☆市役所で月間目標

市役所では、市民サービスの向上と職員間の融和を図る目的で月間の努力目標を決めその実行に努めています。

六月は「まずおはよう」をキャッチフレーズにあいさつをする運動を行ない、七月は電話の応対をよくする月間と決めました。

★水道事業功労者

六月二十日新発田市で開かれた新潟県水道協会北新支部（一五一団体）の総会で、水道事業の功労者として次の方々が表彰されました。

団体　高森・森下簡易水道組

個人　橋本辰次（内島見）小川兵平（早通）林　文治（笠柳）山田信光（横井）

木崎 長浦 両地区で投票

農業委員選挙の結果

三年目ごとに行なわれる市農業委員会委員選挙は、七月五日立候補届けが締め切られ第一選挙区（木崎地区）と第二選挙区（長浦地区）でそれぞれ一人ずつ定員を超えたため、これらの選挙区では投票が行なわれました。

当選者は次のとおりです。

第一選挙区（葛塚地区）

風間　一作（現、下嘉山）
丸山　惣七（新、新発）
雪井　忠治（新、名山）
北沢　道雄（新、上黒山二）

第二選挙区

小池　稔（新、内島見）
小川　源三（現、早通）
高橋惣一郎（新、尾山）
阿部　源松（新、浦ノ入）
仲川　信雄（新、笹山）
高橋　昌美（現、木崎）

第三選挙区（岡方地区）

土田　昭衛（新、高森新田）
渡辺　丹（新、高森）
原　市次（新、森下）
高橋　幸治（現、大瀬柳）
菅藤　幸光（現、山飯野）

第四選挙区（長浦地区）

藤田　三与（現、内沼）
市橋英佐武（現、大月）
石山　徳衛（現、浦木）
土佐林毅一郎（元、上堀田）
原　理一（現、新井郷）

農業委員会の委員は、以上の選挙された委員のほかに、市長が選任する農業協同組合および農業共済組合が組合ごとに推せんした理事各一人ずつと、市議会で推せんする学識経験者五人以内をもって構成されます。

公害モニター決まる

公害モニターとして、次のかたがたがこのほど委嘱されました。

地域内における公害の監視情報の収集、公害防止の意見の提案などのほか、とくに公害が発生したときの通報をお願いすることになっています

小柳元一（横土居）小柳幸之助（横土居）阿部功（浦ノ入）仲川信雄（笹山）大川正三郎（内沼沖）

福島潟の習俗その2

▽ハスネホリ（蓮根掘り）

潟に自生しているハスを、晩秋から初冬にかけて水中にもぐって掘る。まず六〜九尺（二〜三㍍）の竹ざおを持ち親茎といって三〜四年目のものを探す。

この親茎にそわせて竹ざおを立てる。舟の中で裸になり頭にトウ油紙で作った帽子をかぶり、ネネにはスゲで作ったハンバキをつけて水にはいる。帽子は寒さとこみょけで頭にあわせて作る。竹ざおにつかまって足でハスネを探しあてて掘る。半分くらい掘ると一気にもぐって手でつかんで浮きあがる。泥水でヒシ、ヒシガラなどが足や肌に刺がささって痛いが、三〜四本掘るうちに冷たさで痛い感じもなくなってくる。体が冷えるとあがってたきびにあたり暖まる。こうして一日掘ると五〜六貫（二十〜二十四㌔）掘ることができた。掘ったハスネは自家用のほか水原、葛塚、新発田へ売りに行った。天王、三ツ橋では舟に火箱や火床をもって行き、舟の上で体を暖めた。（新発、内沼、飯山、黒山）

▽ドンバス（オニバス）

ドンバスは、八月上旬から九月下旬ころまでとる。舟で行き、葉柄の太いものを見つけて底土からすぐ上の所から葉刈鎌で刈り取る。浮き上った葉柄の葉を切り離して柄だけとる。このとき葉柄の逆刺が手に刺さるので気をつける。花柄もとる。舟の中でそろえてなわでしばり家に持ち帰る。葉柄は、ハスネと同じに穴があいている。葛塚へ販売もした。ホブキといって親しまれた。種子は拾ってきて乾燥し、食用にした。（潟一帯）―写真―

▽クロンボ（マコモの黒穂病）

マコモの出穂前のもので、一種の病気である。根部から二尺（六十㌢位）あがったところがふくらんで、大きさは五寸位（十五㌢）、直径二〜三寸（六〜九㌢）のもので灰白色をしており食べられる。出穂したものは黒粉状のものとなる。村上、会津の盆師が買いに来た。（天王、大月、砂山、黒山）

☆日本損害保険協会が消防車を寄贈

社団法人日本損害保険協会が消防自動車一台を市に寄贈し、七月十一日、その引渡式が市役所前で行なわれました。

寄贈された消防自動車は普通型で一台約三百万円です。

これで市の消防車保有台数は消防署に四台、消防団が二台の計六台になりました。

（朝日火災海上保険株式会社など二十一の損害保険会社で組織している協会で、火災予防、交通事故防止などのために毎年地方自治体へ施設を寄附している）

★長浦地区で敬老会

長浦地区の敬老会が七月九日、上土地亀小学校において開かれました。これには七十歳以上のおとしより四百四人が招かれ、民謡連盟（会長八田慈治さん、下町）によるおどりなどでたのしい一日を過ごされました。また、ことし九十歳になられた次のかたがたに市長から感謝状と記念品が贈られました。

曾我玉吉（上堀田）
渋谷スエ（大月）
田沢サキ（下土地亀）

☆中央公民館にピアノと移動公民館車

中央公民館にグランドピアノがはいりました。

公民館では、さっそく婦人学級、青年講座や、各集会に活用し、これを機会に将来は市民合唱団を結成して、音楽の市「豊栄」にしたいといっています。

移動公民館車は県の公民館施設事業として県からの補助金をもとに購入したもので、九人乗りのワゴンです。各地区で催される映写会や料理教室あるいは行事のPRや講師の送迎など幅広く利用する考えです。